

モンゴルにおける道德教育に関する研究の変遷 —社会主義時代と現在における先行研究の特徴を中心に—

バヤスガラン・オユンツェツェグ*
(Bayasgalan Oyuntsetseg)

1. はじめに

モンゴルが社会主義体制から多党制の議会制民主主義に転換して以来、新しい民主主義社会におけるモンゴル民族の生き方そのものについて、またその根底にある道德に関わる諸問題に対して、年を重ねるごとに多くの人々が関心を高めている。社会状況と価値観の変化に対応して、多様な価値観を認め、主体的に考え、行動する力や生きる力を育てることを目的に、教育の分野で大きな改革が起こった。現在も、従来の暗記中心の指導方法の見直しをはじめ、改革の模索が続いている。こうした中、新しい時代に生きる子どもたちに求められる資質や能力を明確にし、それを具現化する教育のあり方を中長期的な視野で検討することが重要な課題となっている。しかし、研究の蓄積は極めて乏しく、道德教育の概念や方法も未だ確立されているとは言い難い。従って、本研究でモンゴルの道德教育に関する研究は、社会主義時代と社会体制改革以降の二つに分けて、それぞれの時代の道德教育の特徴と研究の特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 社会主義時代の道德教育の特徴

モンゴル人民共和国（1921～1980年代末）の道德教育の歩みは、社会主義教育の理想を求め続けてきた歴史でもある。革命前の1910年当時、人口は、わずか60万人弱で、国民の3%しか読み書きができない状況にあった¹⁾。しかし、60年代末までに識字率がほぼ99.7%まで上がるという、画期的な変化が実現されたことは注目すべきであろう。

モンゴル人民共和国における道德教育で特徴的なことは、1974年の「高潔な態度」（低学年用）、「マルクス・レーニン主義的道德の根拠」（高学年用）を別にして、特別な教科が設けられていなかったことにある。道德教育が重視されていたにもかかわらず、そのための教科がなかったことは、逆に全教育活動を通じて道德教育が行われていたことを意味する。教科としては、社会科や歴史科、「労働」科がその代表である。さらに、課外活動、青少年組織の活動でも行われていたのである。従って、道德教育の理念が学校教育において、最も具体的に表現されているのは、「労働教育」、「社会主義的思想と学校規則」、「青少年の組織」、「教科指導」であると筆者は考える。これは道德教育の四つの重要な柱であるといえる。表1-1でその内容を示した。

*モンゴル：モンゴル国立大学

表 1-1 道德教育の四つの柱

道德教育の四つの柱	指導内容
① 労働教育と道德教育	勤勉な精神、労働と働く人を尊ぶ精神、自覚した労働選択、団体意識、責任感、義務感、国有財産を保持する精神、ものを作る喜び、互助の精神、協力する精神（「労働科」、労働キャンプ、生産実習、社会有益労働）。
② 社会主義思想・学校規則と道德教育	共産主義道德、社会主義的思想、愛国心、国際主義的思想、社会主義および人民革命党への忠誠心、社会主義への確固たる信念、社会奉仕の精神、集団性、人間相互尊敬。
③ 青少年の組織と道德教育	祖国に対する愛と献身、社会主義思想の普及・宣伝活動、社会規範と文化的価値観の宣伝、自覚的な学習態度、団結し助け合い、献身的な同志愛、誠実に信用を守り、学校や地域社会への労役、社会的有用労働、休暇キャンプへの参加
④ 教科指導と道德教育	社会主義社会における善悪の意味、人間の名誉の意義、幸福と自由に関する理解、社会階級思想、社会主義的愛国心、新社会建設に対する積極的な態度、共産主義的道德に照合して行動できる力等（歴史、社会科）。

出所：①モンゴル国民教育省教育研究所『生徒の道德教育』国民教育省出版、1975年、②L. Shagdarsuren『モンゴル人民共和国の国民教育の発展』国民教育省出版、1975、③N. Purevdagba, M. Togtohyam『モンゴルの子どもの組織』Tsomorlig tub 出版、2005年、④Tse. Balhjav, Ch. Jugder『共産主義的教育の課題』国民教育省出版、1957年、などの文献をもとに、筆者作成

この時代の道德教育の理念を考察する際、まず、社会主義的思想、社会・国家から期待される人間像を定めている生徒規則の理念に注目する必要がある。表 1-1 の内容のように、厳格な思想教育を通じて社会の政治的および思想的統一、国民の確固たる信念、絶対的な支持と信頼を基本とする社会主義的社会関係を発展させるために、道德教育は重要な武器と位置付けられていた。そのため、学校には、科学技術と知識を修得させるだけでなく、社会主義社会を支える責任感と共産主義的世界観を育てることが要求され、国有財産の保持や社会貢献の精神が重要な徳目として提起された。また、謙虚、協調性、集団主義、思いやり、謙譲さ、人間相互の尊敬、誠実、正義などの道德規範について教えることが重要な教育課題とされた。教科指導だけでなく、科学に関わる学術会、読書会、遠足や行軍などの会合も道德教育の場として活用される。政治家や歴史上の人物の学習を通じて、模範的行動の習慣化が図られたことにも注目すべきである。

それと同時に、「社会奉仕活動」が義務付

けられたことが、この時代の道德教育の特徴である。下記の表 1-2 は、8 年生学校における教育プラン（1963）を示したものである。

モンゴル人民共和国では、すべての教科の教授過程で人間形成が進められてきた。広い意味での教育は、科学の基礎を教える教授（*cyprax*）と、子どもを育てる訓育（*хүмүүжүүлэх*）によって構成されていた。訓育は、社会生活に対する態度などの形成にかかわる教育の側面である。いわゆる、道德教育である。これは、現在も受け継がれている。しかし、社会主義時代の訓育は、現在よりも重視され、訓育機能を伴わない教授も、教授機能を伴わない訓育も成果をあげ得ないとする考え方が強調されていた。そのほか、人格形成を目標に掲げ、各種の活動を通じて身につけさせ、社会全体の協力のもと、追及しようとしたのも大きな特徴である。

モンゴル人民共和国の道德教育の問題点として、次の三つを挙げることができる。

第 1 は、教材の問題である。子どもの興味、発達に応じた教材ではなく、イデオロギーの注入という性格の強いものが使われていたこ

表 1-2 8 年制学校における教育プラン（1963）

教科	学年別の週時間数									全学年の計
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	
モンゴル語	12	12	12	9	6	5	5	3	64	2,195
文 学	-	-	-	-	2	2	2	3	9	315
数 学	6	6	6	6	6	6	6	5	47	1,621
歴史・憲法	-	-	-	-	2	2	2	3	9	315
博物学	-	-	-	3	-	-	-	-	3	102
自然科	-	-	-	-	2	2	2	2	8	280
地 理	-	-	-	-	2	2	2	2	8	280
物理学	-	-	-	-	-	2	2	3	7	245
化 学	-	-	-	-	-	-	2	2	4	140
製 図	-	-	-	-	-	-	1	1	2	70
外国語	-	-	2	3	4	4	4	3	20	695
音 楽	1	1	1	1	1	1	1	-	7	241
図 画	1	1	1	1	1	1	-	-	6	206
体 育	2	2	2	2	2	2	2	2	16	552
労 働	1	1	1	1	2	2	2	3	13	451
実験場での労働*	-	-	-	-	1	1	1	-	3	105
農業根拠								2	2	70
社会有用労働	-	-	2	2	2	2	2	2	12	416
生産実習(日数)	-	-	-	-	18	24	48	-		90

*校内作業場（木工・金属加工・農作業、手芸、刺繍等）、工場見学、労働体験学習、労働キャンプのことをいう。

なお、当時の義務教育は 8 年間。

初等部 1-4 年。中等部 5-8 年。（高等部 9-10 年）

外国語はロシア語のことである。

出所：Sh. Shgadar『モンゴル教育史』Bembisan 出版、2000 年、p.192

とである。現在、「モンゴル」では、特定の政治的立場からの教育は禁止されている。しかし、モンゴル人民共和国の場合には、一党制のもと、思想性を欠いた教育や政治拔きの教育はむしろ誤りとされていたのである。

第 2 は、多様な価値観の存在に気づかせ、子ども自身に深く考えさせるような道德教育ではなかったことである。すべてが計画性に基づく社会主義社会では、社会公認の価値が唯一の決定的なものであった。そのため、多様な政治思想や自由な意見が抑圧され、公共の建物や学校などあらゆる場所に、国家が定めたスローガンが掲げられた。生徒たちには、生徒規則が定められていた。また、共産主義少年団などの青少年の組織にも行動基準があった。常に与えられた基準を満たすことが奨励されており、子ども達自身で独自の基準を立てることは不可能だったといえる。教育の場で、個別化や多様化という表現が使わ

れることはまれであり、画一的で、型にはまった子どもを育てていたといえる。

第 3 に、生徒に暗記教育を強要していたことである。学校における道德教育は、多くの場合、指導する価値項目に焦点を当ててそこに急角度で迫る指導、道德的価値の注入主義的指導であった。教育現場のみならず、社会全体で、国家権力による価値一元化への圧力が強く、個人の思想、信条、言論、宗教の自由は保障されなかったという問題もある。

とはいえ、肯定的な側面が全くなかったというわけではない。現在の道德教育に示唆するものとして、次の 5 点を指摘できる。

- (1) 道德教育の目標を明確におさえていること
- (2) 道德的価値に関する知識と行動（労働教育を通じて）を統合的に捉えようとしたこと
- (3) 学校だけでなく、子どもの組織や校外施

設など、子どもたちが関わるあらゆる機会を通じて道德教育を進める環境が整備されていたこと

- (4) 教授と訓育の両者が重要視されていたこと
- (5) 実践的行動が重要視されたことなどである。子どもたちに努力すべき目標が直接的かつ明確に示され、それが机上の空論にならないように、社会奉仕活動などの応用の機会を提供していた。それに伴い、社会への責任意識の育成が目標として挙げられ、生産現場などで実践的な指導を行っていたのが大きな特徴である。

その結果、ある種の社会的道德－愛国心、公共の精神、労働を重んじる心、社会的弱者層への援助、社会奉仕と協力精神、社会の中で生活するのに必要な集団性、責任感、社会的財産の保持、人間相互の尊重－といったものを身につけ、それによって、ある程度の安定した社会が実現されたことは確かである。

3. 社会主義時代の道德教育に関する研究

道德教育の内容が種々の決定や指令のかたちで事実上法制化され、それが道德教育に関する研究で紹介され、その妥当性を強調していたことが、この時期の道德教育に関する書籍の特徴である。

従って、社会主義時代の道德教育に関する先行研究で、モンゴル国民教育省教育研究所やモンゴル革命青年同盟本部から発行された道德教育に関する政策が大きな意義を持っている。たとえば、「生徒規則」、「共產主義少年団の規約」、「革命青年団の規約」などを取り上げることができる。その他に、「学校と現実生活の関係強化と国民教育制度の将来の発展に関する法律」、「青少年向けのイデオロギー教育促進に関する指令」、「人民革命党お

よび国民の革命的な伝統により青少年を教育することに関する指令」を取り上げることができる。

「学校と現実生活の関係強化と国民教育制度の将来の発展に関する法律」は、1962年にモンゴル人民共和国人民大会議で採択されている。ここでは、教育、生活、生産の関係の強化、青年の労働的、道德的、美的、肉体的教育の改善が課題とされている。この法律は1958年に制定されたソ連の法令をそのまま書き写したものだ²⁾。さらに、「青少年向けのイデオロギー教育促進に関する指令」(1963)と「人民革命党および国民の革命的な伝統により青少年を教育することに関する指令」(1967)が、モンゴル人民革命党中央委員会政治局より決定されている³⁾。これらの決定では、学校教育の主たる任務が、肉体労働と精神労働とを結合させる能力のある人間を育てることと、社会主義社会の原則に対して心から尊敬の念を抱く人間を育てることにある、と定義されている⁴⁾。この任務は、教育を生産的労働と社会主義建設の実践とに緊密に結びつけることで成し遂げられると考えられていた。また、社会全体で広がったイデオロギー活動やイデオロギー宣伝員の動員を通じて、社会主義的人間の資質と、「共產主義的道德」⁵⁾という概念がより明確に挙げられるようになり、道德教育に関する多くの書籍で取り上げられ、紹介されている。

この時代の代表的な道德教育の研究として、次のような研究が挙げられる。

S. Nergui (1957) は、「中学校における道德教育に関する研究」の中で、レーニンとマルクスの教えを引用しながら、豊かな人格を形成するために、愛国心、義務、思いやり、誠実等、基本的価値観を身に付けた子どもを育成することの必要性和学校経営と国家政策の関連について強調している。

S. Sandag (1968) は、「モンゴルの伝統的な倫理に関する研究」で、社会主義的思想と、モンゴルの伝統的な倫理思想の意味、具体的には、集団性、愛国心、労働愛、財産に対するモンゴル人の考え方（富より知識優先等）、父母への尊敬、思いやり、友情、謙虚、用心深さ、我慢強さ等の概念について事例を挙げながら解説している。

G. Ayur (1974) は、「小学生の人格育成の方法に関する研究」で、学級集団づくりを中心とした研究を報告している。人格形成の第一段階ともいえる小学生に対する集団主義教育の重要性を強調し、自己を集団の一部として自覚し、集団の利益を優先する心構えをもった人間の育成、学級活動の評価の基準などについて論じている。

B. Chimed, D. Dashjamts 他 (1987) は、専門技術学校用の『法律と道德』という教科書で、法律の規定を中心に倫理的諸概念（社会主義法令、共産主義的教育、共産主義的道德、共産主義的道德の課題など）について説明している。

これらの研究の中で、倫理的諸概念として取り上げられているもの（善悪、誠実、義務、名誉等）は、以下に述べる現在の道德・倫理に関する研究で、取り上げられている概念と同様なものである。

現在の研究と異なる点は、その解釈がやや社会主義的思想を感じさせる内容になっている点である。これを別にすれば、そこに取り上げられているものを、規範的、もしくは倫理的な原則として捉えることで現在でも位置づけることができる。この時代におけるほとんどの研究は、社会主義的思想を強く意識している点に特徴がある。

4. 社会体制改革以降の道德教育

現在のモンゴルでは、道德教育指導要領といった制度的な基盤が整備されておらず、義務教育課程全体を貫く計画が存在していない。道德教育指導要領がない中、個別指導、学級活動、特別活動、校外活動などの多様な場面で生徒指導が行われている。

1991年に初めて「モンゴル人民共和国の教育法」(БНМАУ-ын боловсролын хууль) が公布された。この法律は、社会体制改革前に、社会主義のモンゴル人民共和国で制定された最初で最後の「教育法」であった。

同法は 1991 から 2005 年の間に 4 回改正されている。教育の目標について「知的水準が高く健康的で、公正および法令を遵守し、祖国および自然を愛し、美的感覚が豊かで、独学能力があり、生活・労働する力がある人間を育てることにある」⁶⁾、「健康的な身体、知的能力、法令を遵守する人道的な精神および美的感覚を学習させ、独力で学び、生活する能力を植え付けることにある」と規定している⁷⁾。以下、表 1-3 は、モンゴル教育法(Монгол улсын боловсролын тухай хууль、以下「教育法」と略す)の改革の変遷をまとめたものである。

これらの条文から読み取れるとおり、学校教育の目標は自立する上で必要な知識、能力、習慣を修得し、美的感覚、道德観念、生きる能力を育てることにあつた。その中で最も重要視された資質は「生活できる能力」である。日本でいう「生きる力」である。多様化が進む社会の中で必要なことは、どのような場面に直面しても自律的に社会生活ができる能力だとされたのである。

また、公正および法令を遵守し、祖国および自然を愛し、両親や年長者を敬う心、豊かな美的感覚が重要な資質として掲げられてい

表 1-3 教育法の改革

	年	教育の目標	教育の原則	教育年数
共和国の教育法 モンゴル人民	1991.7	普通教育学校は生徒が独力で学習する力、生活力のある人間になるように、科学的な根拠に基づき教育し、基礎教育を与えることを目標とする教育機関である。(第2条)	モンゴル人民共和国の教育は、人道的かつ民主的であり、国民および人類文明の伝統および科学に基づく(第3条1項)。教育方法および仕組みは、多様な形態で、自由、公開でなければならない(第3条2項5号)	6・2・2 (8才から入学) 初等教育 中等教育 高等教育
モンゴル教育法	1995.6.13	普通教育学校の目標は生徒に基礎教育および初等中等レベルの技術専門知識を教え、健康的、美的、道徳、法的教育を行い、人道的精神を涵養することにより、個人が開発され、才能・能力を発揮でき、生活に準備できるように手助けすることにある(第3条)。	モンゴルの教育は人道的で、民主的、継続的、全ての国民に対し公開であり、自国および人類文化の価値、進歩的成果、習慣、科学に基づく(第4条1項)。教育を施す方法は、多様なパターンを持ち、自由である(第4条2項)。	4・4・2
モンゴル教育法	1998.7.23	教育の目標は健康的な身体、知識、法令を順守する人道的精神、道徳的、美的感覚、独学力、生活力を育てることにある。 初等中等教育学校は、基礎、技術、専門の初等中等教育を行う。高等教育学校は人道的性質を学ばせ個人が開発され才能を発揮し生活に準備できるよう指導する(第3条)。	1995年の教育法の原則がそのまま引き継がれた	4・4・2 (6、7才入学可)
初等中等教育法 モンゴル教育法	2002.5.3	教育の目標は、あるべき水準の知的、道徳的、身体的能力を持ち、人道的規則を尊敬し順守する、自力で学習し、労働し、生きる力がある人間を育てることにある(モンゴル教育法第4条)。 初等中等教育学校は、基礎教育を施し、愛国心を養い、人道的な性質を身につけさせる。生徒が才能を開発し、生活および労働、常に学習できるように自分を用意することを手伝う(初等中等教育法第2条1項)。	教育は人道的、民主的、継続的、公開的であり、自国および人類文化の価値、進歩的伝統、科学に基づく(モンゴル教育法第5条1項2号)。 教授方法は多種多様で、自由かつ開放的である(第5条1項3号)。 氏族、言語、宗教などで差別してはいけない(第5条1項4号)。	5・4・2 (6才入学可)

出所：モンゴル教育文化科学省教育研究所『過去15年間におけるモンゴルの教育研究—経緯および教訓—』2006年、pp.65-67, Sh. Shagdar『モンゴル教育史』Bembisan出版、2000年、p.256、pp.282-283、pp.297-298、をもとに筆者が作成。

る。

これに従って、モンゴル教育文化科学省が「自立する上で必要な知識、能力、習慣を修得し、美的感覚、道徳観念、生活力を身につける」教育を目標にし、それに合わせるように1991年4月に「普通教育のカリキュラムを段階的に改める計画に関する省令(146号)」を出し、学習指導要領や教科書の改訂を始めた。その結果、子どもの生き方や生活態度の指導に力を入れ、人道的教育、人間性教育、社会性教育、コミュニケーション教育などが教養教育の根幹であるとの考え方のもとに「法律」(эрх зүй)、

「郷土」(орон нутаг)、「道徳」(ёс зүй)、「尊重すべき規則」(ариун ёс)などの教科が創設された。

「法律」では、児童の権利や社会問題などを定義し、事例を通じて、人間の遵守すべき道徳律を理解させようとした。「社会認識」は、人間の本質、哲学の起源、哲学の基本概念、社会生活の仕組、社会の構造及び発展を理解し、社会的立場を明確にするのに役立つ知識を与えることを重視した内容になっている。「郷土」は、伝統的な習慣や文化に関する知識を中心的な内容とした教科である。生活基盤として子どもの日常生活と結びついて

表 1-4 「社会性」で学習する道德律

6 学年	7 学年	8 学年	9 学年
道德律 遵守すべき道德律：優しさ、謙虚、慎重さ、我慢強さ、誠実、公正、協調性、真面目等	道德律 善意の行動：他者への手伝い、他者への世話、思いやりなどの習慣化 悪意の行動：他者のものを盗み、嘘をつき、悪口を言い、誤った思想を守る等	道德律 思いやりの精神、良心、道德律上の権利と義務、その履行に関する説明、個人および社会の一定の規律、その履行に関する説明	道德律 名誉とその大切さ、望ましい資質、幸福と人生の意義、国内および国際文化に対する尊重と誇り

いる郷土に関する知識を教えて、子どもにより良い生き方を身につけさせようとしたのである。

一方、「道德」は、5年生のみを対象とする教科であった。これは、中世から近代に至るまでの代表的な倫理学の理論、倫理学の起源、研究領域、基本規則、基本概念、倫理学研究者の紹介など、学術的な知識が中心内容となっている。また、伝統的な習慣に関する知識を教えることに重点を置いている。例えば、乳製品の作り方、競馬の伝統、遊牧民の移動習慣などである。

そして、2005年に正式に導入された教育スタンダードでは、従来の知識偏重教育から人間形成重視への移行が図られた。新教育スタンダードでは、これまでの反省から児童中心型の教育への移行がより一層目指されている。多色刷りのイラストが多用された教科書がつくられ、視覚的に解かり易いものになってきているものの、授業形態には依然として大きな変化は見られない。以下、この時期の道德教育の特徴を、三つの点から検討する。

(1)「尊重すべき規則」と「道德」が既に廃止されているものの、道德的内容を取り上げる教科は増えている。「人間と社会」(хүн нийгэм)⁸⁾、「人間と環境」(хүн байгаль)⁹⁾、「社会性」(иргэншил)¹⁰⁾などが新設された。

これらの教科では、人間の行動の善悪の判断について「人間関係」、「私たちの関係」、「道德律」などの項目の中で教えている。ま

た、「健全な人間関係」や生活習慣について学ばせる「健康」(эрүүл мэнд)¹¹⁾が全学年に創設された。これらの教科では、謙虚、傲慢、我慢強さ、短気、協調性、頑固、我慢、用心深さ、公正、名誉、優しさ、思いやりや社会で守るべき普遍的道德律、歴史と文化、伝統的な習慣に関する項目を扱っている。表1-4は、教科学習であつかう道德律の事例である。

(2)教科の指導方法は依然としての問題点が多い。各種の教科書を比較検討しても、取り上げる道德的価値の扱い方、指導の仕方についての記述が少なく、生徒の内面的な変容を促す指導方法から程遠いものである。例えば、「人間と社会」、「健康」の教科書を見ると、「このような行動が良い」、「このような行動が悪い」と自己啓発本のように書いた上で、誘導的な質問に回答させるだけの記述が数多くみられる。善悪についての知識を与えることを優先し、学習者が話し合いをしたり、感じ方や考え方を深めたりするような工夫が不十分である。

(3)教科外指導についても、新教育スタンダードの本来の狙いと実態が一致しない点が見られる。

教科外指導は、「コミュニケーション能力」、「社会における望ましい態度」、「他者や自然に対する態度」の育成など、道德教育と近似した目的をもっている。指導方法としては、子どもの主体性・創造性に重点を置き、

子ども自身に学ばせる媒介的な指導が目指されている。

5. 社会体制改革以降の道德教育に関する研究

現在における道德教育について、一般にどのようなとらえられ、どのような研究が行われているのかについて先行研究を調べ、(1) 社会における倫理的な概念の変化と教育の関連について、(2) 伝統的な習慣や伝統倫理の基本精神や内容を中心にした研究、(3) 倫理思想に関する研究と、三つのカテゴリーに分類した。以下、それぞれの研究内容についてまとめる。

(1) 社会における倫理的な概念の変化と教育の関連について

B. Tsebegmed (2000) は、「モンゴル人の価値観に関する社会学的研究の課題」で、モンゴル人の価値観の変化を、モンゴル帝国時代から 16 世紀までの価値観、モンゴルの各部族間にチベット仏教が広まった 17 世紀から 20 世紀までの価値観、社会主義時代の価値観、1990 年代以降の価値観といった四つの時代に分けて、それぞれの時代の特徴を考察している。

そして、モンゴル人の価値観の基本的な概念について解釈し、現在の「社会混乱」は、不景気よりも価値観の喪失によるものだと指摘している。不景気は乗り越えることができるが、価値観の復活は相当な時間を要する。責任感や社会性の欠如など、社会精神面での歪みの顕現化が憂慮すべきことであるとし、価値観の教育が求められると結論付けている。

Ts. Batbayar (2007) は、社会における価値観の役割に関する研究で、自由で自立した

個人が作り上げる市民社会の原理について、ロック、ルソー、カント等の市民社会論を紹介し、人権思想、社会思想、政治思想を中心に、現代のモンゴルの社会が抱えている諸問題について論じている。そして、市民社会の諸原理を押さえた上で、西洋思想からは「法思想」、東洋思想からは結果より動機を評価する「義務論」等を挙げ、物質的側面による生活の豊かさより、国民の精神的な営みや教育に着目する必要があるとし、今後の市民社会における「価値観の教育」の役割について述べている。

これらの研究では、モンゴルにおける倫理思想の歴史、その背景や社会とのつながりを記述している。道德は人間の行動の善悪や適否を示す基準であること、健全な社会の維持・発展に欠かせないものであること、さらに、モンゴル人の価値観や倫理観は変化し、伝統的な倫理が解体されていることが強調されている。そして、モンゴル人の倫理観はなぜ、希薄化しているのか、道德なき教育がモンゴル子どもたちに施されており、それが今日の道德なき社会を生んでいるとし、道德教育の大切さを説いている。

(2) 伝統的な習慣や伝統倫理の基本精神や内容を中心にした研究

T. Namjil (1996) は、モンゴルの伝統的な家庭教育に関する研究の中で、「豊かな人間性を育成するための重要な柱は、先祖が育てあげた大切な伝統を継承させることである。伝統と習慣は、わが国のアイデンティティーそのものであり、子どもたちに小さいときから勉強させることは非常に大事である」と述べ、「伝統的な家庭教育法とは、例えば、できないことを叱るよりできることを勇気づける、子どもを甘やかすより苦勞を味わせる、模範を提示しそれを見習わすことだ」と述べ

ている。

Sh. Suhee (1987) は、『モンゴルの伝統的な教育方法に関する研究』の中で、個人より集団に価値を置く集団主義や相互依存的個人観を解釈し、抽象的論理ではなく、経験ベースの知識に基づいた包括的思考、家名と名誉を重んじること、学業に専念することの大切さ等について教育するのが伝統的教育の基本であると述べている。

G. Erdene-ochir (1993) は、「モンゴルの伝統的な教育方法とその展開」に関する研究で、伝統的な教育内容について述べている。それは、モンゴル人の伝統的な道德観や倫理観を家族関係、友人関係から順を追って説明し、親に孝養をつくし、兄弟へのいたわりの心を持ち、友人と信じ合い、言動をつつしみ、人格を磨く大切さを知り、勤勉と謙虚さを持ち、愛国心を持つこと等だとする。この研究と同様な研究として、U. Doyod, N. Nergui (1991) のモンゴルの伝統的な教育制度に関する研究が挙げられる。

R. Darikhuu, Z. Tsendsuren (2007) は、道德の荒廃が大きな社会問題となり、伝統的習慣が失われ、若者の規範意識が低下していることを指摘している。そして、伝統的な習慣の現代的意味や重要性を正しく認識し、行儀良い態度や自然を慈しむ姿勢等を身につけさせる目的で、中学生用の「遵守すべき規範」という本を著わしている。この本の中で、モンゴルの伝統的な挨拶、他者への尊敬の念、兄弟愛、労働愛顧、協調性、几帳面、友情、自己の名誉を大事にする意味などについて、伝統的な習慣とことわざや格言などを引用しながら紹介している。

以上の研究では、モンゴル人が古くから守ってきた価値観、倫理観の大切さを説き、モンゴルの伝統的倫理思想を現代的な視角から再吟味し、その倫理的規範を正しく理解

し、実際の生活に適用、実践できる人間の育成、さらに、民族の主体性を守るモンゴル人を育成する必要性等が強調されている。その中で、伝統的な教育で、どのような倫理観を養っていたのかについて検討するとともに、道德教育の必要性を説いている。そして、習慣など文化的影響力を重視して、その教え込みを道德教育の手段としているのが、これらの研究の特徴である。

(3) 倫理思想に関する研究

ここで、代表的な研究として、次のような研究が挙げられる。

D. Tungalag (2002) は、倫理学の歴史（古典古代の思想、中世思想、モンゴルの伝統的な倫理思想、現代の思想等）、倫理的諸概念（善悪、誠実、人生の意味等）について研究している。

Ts. Batbayar (2004) は、倫理学の研究領域、規範倫理学、倫理と哲学、倫理と科学、仏教の思想、儒教思想、Tao（道教の哲理の道）の思想、スバシド（13世紀～15世紀にチベット語からモンゴル語に翻訳された小説）における思想について研究している。

M. Zolzaya (2008) は、倫理学の研究領域、倫理の歴史、世界の倫理思想の歴史（古代インド、古代中国、古代エジプト・ローマの倫理観、中世の宗教観等）、13世紀～20世紀のモンゴルの倫理思想、倫理的諸概念（忠誠、義務、思いやり等）、職業倫理（法律家、研究者、教員、政治家の倫理等）、宗教倫理（キリスト教、イスラム宗教等）について研究している。

O. Pureb (2005) は、「新世紀に生きるモンゴル人に対する、心、規範意識、創造性の教育」という研究で、新しい市民社会に生きる人間の慈悲的精神を育てるには、心の教育、規範教育、市民教育が重要であるとし、それ

ぞれの教育の理念を紹介している。

これらの研究では、代表的な西洋倫理・哲学思想を中心に、人間の生き方に関する諸問題に関する理解や、現代社会の特質について述べている。

つまり、モンゴルにおける倫理と道德に関する研究は、モンゴル民族の伝統的倫理思想を広い意味で探求し、認識させることに、その基盤を置いている。そして、その内容は、古代から受け継がれてきた核心的な価値や規範、その概念の解釈によって構成されるのが、特徴である。

以上の研究の中で、学校の道德教育に関する実践的な研究としては、以下の研究のみが挙げられる。S. Erdentsetseg (2002) の「子どもの道德性の発達を促進する家庭道德に関する授業事例に関する研究」である。社会の最小単位とされる家庭は道德教育の重要な場であり、家族の影響や教えを受けて、子どもの最初の価値観や倫理観が培われるが、貧困、離婚、失業等で家庭教育が衰退しているので、小学校から高校まで道德に関する教科を教授する必要があると述べている。モデル高校で「健康」の教科と、学級活動の時間を利用して実践した「家庭の道德」に関する授業事例を紹介し、授業に参加した高校生の感想を紹介している。この研究は、道德教育の必要性を指摘してきた他の研究と違って学校の中で実際に授業を実践し、教科外活動での道德教育の事例を紹介している点が大きな特徴である。

しかし、どのような内容が高校生にとって、関心を引くのかについて重点を置いているため、単元名(私はどんな人間であるのか、人生の意味、私の人生の目標、モンゴルの伝統的な習慣、人間関係、家族と学校等)と生徒の感想文の記述のみになっており、授業の展開や指導方法等、具体的な授業形態につい

ては、不明確な点がある。

これまでに紹介してきたモンゴルにおける道德教育に関連する研究の特徴を整理すると、次の二点にまとめることができる。

①主に倫理思想を古代から現在まで通観し、伝統的倫理を基礎的な土台として、その基本精神や規範に対する根源的な認識とその実践に重点を置いていること。

②「国民教育」、「伝統的な教育」といった、モンゴルに固有な教育の営みについて研究しており、その内容は、民間教育に近いようにもみえること。

すなわち、ほとんどの研究は、社会における価値観の変化や、伝統的な家庭教育、民衆の習俗、伝統的な価値体系の解明に集中しているということである。そして、現在における社会問題を考察しながら、今日、求められる新しい道德的価値の原理を探るという展開になっている。これは、モンゴルの道德教育研究の主要な流れである。しかし、具体的に、道德教育の何をどのように改革するかと問われれば、「学校で、いくつもの道德的価値を教授すべきである」と指摘する研究が多い。例えば、マナーを守ること、親切にすること、自他の生命を尊重すること、整理整頓をすること、嘘をつかないこと、義務を守ること、礼儀作法、公共心、慣習など多くの道德的価値が挙げられている。しかし、道德教育の内容や指導方法、教材分析などに基づく実証的な研究がなされておらず、教育実態に関する研究成果の蓄積は必ずしも充分ではないと認められる。

6. まとめ

本研究でモンゴルの道德教育に関する研究を、社会主義時代と社会体制改革以降の二つに分けて、それぞれの時代の道德教育の特徴

と研究の特徴を明らかにすることを試みた。

社会主義時代の道德教育に関する文献を中心に検討した。この時代の生徒規則は全国統一で公表されていたので、道德教育に関する文献の中で比較的多く取り上げられている。

一方、1980年代末以降のモンゴルで発表された研究を、国立中央図書館のデータベースで検索してみると、多くの研究が、伝統的な家庭教育や社会的価値観の変化に関するものである。本研究の対象とするような、学校教育における道德教育に関する研究の蓄積はきわめて乏しい。

モンゴルにおける道德教育に関する先行研究で、主に取り組まれてきたのは、モンゴルの伝統的な教育方法と、そこで扱われてきた道德的諸概念の本質の解明である。さらに、現在の社会の特質と、その社会に求められる社会的規範や、新しい道德的諸概念に関する解釈である。これらの研究は、道德的諸概念を体系化し、その有用性（なぜ大切なのか）の分析もしているため、倫理学の分野として位置づけることができる。なお、道德教育の改革の必要性は、他の多くの研究でも、指摘されている。しかし、道德教育の実態や課題について立ち入って研究しているものは数少ない。この点が先行研究で残された課題といえる。

参考文献

- 1) Sh. Shagdar『モンゴル教育史』Bembisan 出版、2000年、pp.323-326
- 2) Sh. Shagdar、前掲書、p.190
- 3) O. Pureb「21世紀のモンゴルの歴史および社会科学教育の理論と方法論」モンゴル国立大学社会学研究科教育学博士論文、2003年、p.23
- 4) L. Shagdarsuren『モンゴル人民共和国の国民教育の発展』国営印刷所、1975年、p.25
- 5) 「共産主義の事業への忠誠心、社会主義祖国および社会主義諸国への愛情、社会の福祉のための良心的労働、社会的財産を保持し、増大させるための各人の配慮、社会的義務に関する高度の自覚、社会的利益の侵害に対する不寛容、集団主義と同志の相互援助、人々の間の人道的関係と相互尊重、人は人に対して友人であり、同志であり、兄弟であるという原則、社会生活および私生活における誠実と正義、道德的な純潔、卒直および謙讓、家庭内における相互の尊敬、子どもの教育に対する配慮など」モンゴル国民教育省教育研究所『生徒の道德教育』国民教育省出版、1975年、p.6
- 6) 「1995年の教育法」『Ardiin erh』新聞、142号、1995年8月21日
- 7) Sh. Shagdar、前掲書、p.298
- 8) 低学年における「人間と社会」の教科は体系的な社会化および人道主義教育の基礎である、と言われている。この教科は「私たちの生活と文化の環境」、「法令」、「権利・義務」、「行政機関」について教授している。「私の生活と文化の環境」という領域で自分について家族、親、親戚、友達、隣家、自分の家系、学校、集団、区、市、県、地域の社会、文化、生活、誇りに思う人間、さらに社会秩序、法令、規則に関する一般的な知識、子どもの権利、義務、地方の行政機関の活動について教授している。「私たちの生活と文化の環境」の内容について表1-5に示した。
- 9) 「人間と環境」は基礎教育課程の改革で6歳児からの入学により新設された教科である。

表 1-5 「私たちの生活と文化の環境」の内容

4 学年	5 学年
自分の家系（祖先・親戚など）、普遍の人間関係のルールの説明（学校、社会環境）、地域の習慣、地域の有名人の生活と功労、地域の歴史的・文化的名所と歴史人物の生活など	我が国—モンゴルについて話し合う、祖国の歴史と文化に関する一般的な知識、祖国の伝統（挨拶、感謝を表す方法、接待と歓迎の習慣など）、歴史的・文化的人物、家系図を簡単に作成し活用する方法

表 1-6 「人間と環境」の内容

1 学年	2 学年	3 学年
自己紹介、好きなものと嫌いなもの、家族が互いに気を配り共同生活する意味、家族の好きなものと嫌いなもの、家系と親戚の紹介、家族と年長者を尊敬する意味、隣家と友達の紹介、日常的な人間関係、挨拶、仲間の意味、相互協力・尊敬の意味	自分のできることとできないこと、学校と学級の紹介、校則の説明、友達を手伝い信頼する意味、家族と団体の関係、その良い所と悪いところ、自分の家系の紹介、尊敬する方の紹介	生徒の学習する権利と義務、学級の良い・悪いところ、それを直す方法、学級で守る規則と自分の意見、自分の住んでいる区・市の紹介、地方と町に住む人の仕事の特徴、自分が誇りに思うものとその説明、家族と友達との友好関係の意味、子どもの反社会的行動予防法

表 1-7 「健康」の内容

6 学年	7 学年	8 学年
健康的な人間関係 人間関係の種類、思春期の精神の変化、同年齢者からの圧力から周到に避ける方法、他者を理解し大事にする意味、食文化、人間のよい資質を尊重する	健康的な人間関係 健全な人間関係、不健全な人間関係、コミュニケーション能力	健康的な人間関係 ストレス解消法、いかなる問題に対して多面的な角度から検討し、正しく決定する力、望ましくない性生活とマスコミに対する批判的な態度
9 学年	10 学年	11 学年
健康的な人間関係 アルコール類の影響、性病防止策、反社会行動に対する批判的な態度、よい人間関係を築く方法、異性との関係で気をつけるべきこと	健康的な人間関係 性の多様性、性的志向による性差別の悪い点、性行為に関する正しい知識、避妊についての知識	健康的な人間関係 他者の家を訪問する際のマナー、他者に対するもてなしの方法、人生設計、無防備な性行為とアルコール類などの影響、結婚生活とその責任、家族生活の計画、社会問題に対する個人の参加度を高める方法

この教科は社会や周りの環境、学校や家庭・社会における生活態度、また人間の行動が人間関係、自然環境、健康にどのような影響を与えるのかについて教授する。これらの内容は、「私たちの周りの環境」、「私たちの関係」、「私たちの健康」という三つの領域に分けて扱うことにしている。その中で「私たちの関係」の内容について、表 1-6 に示した。

- 10) 自分の住んでいる社会、個人として社会および文化活動に積極的に参加する方法、社会関係に関する正しい知識、道徳、法令、権利・義務、行政機関について教授している。従って、①社会についての知識の強化、②社会生活で守るべき法令、社会に参加できる能力、③家庭・社会の中での正しい行動の形成をねらいとし、それを「社会化に関する認識」、「道徳律」、「法令・規則」、「権利・義務」、「政府組織」の五つの領域に分けて扱うことにし

ている。

- 11) 貧困家庭や離婚の増大、青少年の非行増加、性モラルの乱れなどの社会的な背景のもと、健全で安全な生活態度や習慣の確立、正しい食事の仕方、栄養指導、性教育などの視点から、1998 年から新設された教科である。2004 年から健康教育に関する新しいスタンダードが導入され、1 年を通じて、他の教科と同様に取り扱われるようになった。新しい健康教育のスタンダードで健康を身体のみならず精神的と社会的健康という総合的な概念において取り扱っている。この概念が健康教育のもとになっている。従って、その内容は、「健康的な身体」、「健康的な人間関係」、「健康的な環境」という三つの領域から構成されている。以下、表 1-7 で「健康的な人間関係」に関する領域の内容を示した。

Changes in the Researches on Moral Education in Mongolia

Bayasgalan OYUNTSETSEG

Mongolian National University

Abstract

Reexamination and renovation of the teaching method from the conventional memorization-based style to new styles which accept various senses of values, promote to think autonomously and actively, develop the power of acting and living for the purpose of adapting to the recent socio-economic environment and sense of value in Mongolia. Under these circumstances, to clarify the nature and capability of children who are living in the new era, and to consider the countermeasures in order to realize new teaching methods from medium/long-term perspectives are becoming critical issues. However, accumulation of research is very scarce, and the concept and method of moral education are established still insufficient. Therefore, the aims of the research regarding Mongolian's moral education are to clarify of the feature of moral education and related researches by dividing into two eras, 1) Socialist society, and 2) Capitalism society after being collapsed socialist society.